

大学で描く—学び、記録する学術スケッチ2—

学習、研究面での絵を描くことの意義、写真とは違う役割を紹介します。

会期：令和7年3月3日（月）～5月31日（土）（日曜・祝日休館） 時間：10：00～16：00（入館15：30まで）

会場：弘前大学資料館（教育学部棟1階） 入場無料

大学の研究や教育の現場では、さまざまな記録のために手軽な写真だけでなく、スケッチが用いられることがあります。スケッチは、描くには時間と手間がかかる上、描画者のスキルや感覚による違いが出来不出来として現れるため敬遠されがちですが、一度人の頭で理解したものを平面に表現するという過程を通じて、写真では表現が難しい対象を描き出したり、写真以上に人に理解しやすい形で描くことが可能です。また、スケッチを描く際には、対象をよく観察し、理解する必要があるため、その過程で新たな発見につながることもあります。さらに、学生に対しては高い教育効果が期待されます。

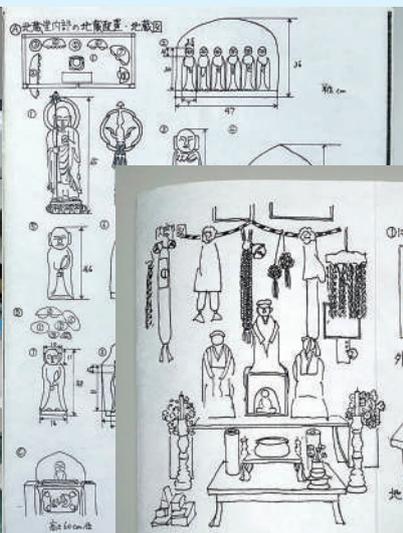
このように学術スケッチには描く行為そのものにも大切な意味があるのです。本展示では、大学における学術スケッチが持つ意義、高い教育効果、写真記録とは異なる学術スケッチの役割を示し、学生らに対しては写真記録を取ることと併せてスケッチを取することを促す展示としています。

【展示構成】

- 1 写真とスケッチの違い（光学的な転写 vs. 脳+手が描く描画）
- 2 学ぶためのスケッチ（大学での実習で描く 高い教育効果）
- 3 記録のためのスケッチ（フィールドノート、実測図 記録する情報）
- 4 伝えるためのスケッチ（わかりやすく描く 論文のための作図）
- 5 思考のためのスケッチ（アイデアを試行錯誤し、考えをまとめる）



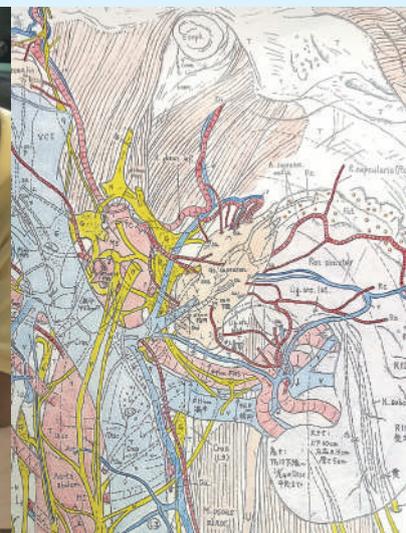
昆虫の微細構造を描く。
弘前大学農学生命科学部。



基礎ゼミナールでのフィールドノート。
弘前大学人文社会科学部 葉山茂。



臨海実習での一コマ。
弘前大学農学生命科学部。



人体解剖図（部分）。
元弘前大学医学部 千葉正司先生提供。

主催：農学生命科学部・人文社会科学部・弘前大学資料館
担当：中村剛之（農学生命科学部）・葉山茂（人文社会科学部）



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

弘前大学資料館

Tel. 0172-39-3432 E-mail: jm3432@hirosaki-u.ac.jp
<https://shiryokan.hirosaki-u.ac.jp/>